



NEWSLETTER

NO.23 1998.8.30 発行

歯科保健医療国際協力協議会

事務局：〒390-0804 長野県松本市横田3-10-14 TEL&FAX：0263-39-1583

発行：村居正雄 編集：大鶴次郎 現会員数：225名

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

E-MAIL: jaico.net@hi-ho.ne.jp

JAICOHは何を目指すか

会長 村居 正雄

JAICOHに入会しておられる方々の動機はさまざまだと思います。将来は国際保健の専門家として飯を食べていきたい、といったプロを目指す人から、青年海外協力隊員として途上国で自分の力を試してみたい、機会があったらスタディツアーに参加してみたい、直接は関われないけど何かボランティアがしたい、途上国の人々の生活や文化に関心がある、などなど。

ところで、会員の皆さんのさまざまな期待に応える作業をしているのは、事務局の白戸さんと僅か数名で、それぞれ開業医、勤務医、勤務衛生士、しかも東京、横浜、名古屋、上田、松本などに点在しています。よくまあこんな体制で8年間もつづいてきたなと振り返って感心しています。その時々活動を支える人が現れて精力的に仕事をし、支えてくださいました。NGOの面白いところは、離合集散、くっついたり離れたりの緩やかな結合の中で個々の思いを実現していくことかな、と思っています。

しかし残念なのは、途上国でのプロジェクトを自らのアイデアで企画し、相手国と交渉し、資金を集め、喜びをともにする仲間を育てるというNGO活動の真の面白さに挑戦する人材が少ないことです。他人の企画したバ

ック旅行に相乗りして、おしきせのメニューに参加するのはボランティアではない。なぜならボランティアの語源は、自らの意志で行動する人とか、義勇兵、志願兵といった意味なのだから、とこだわる人材がもう10人ぐらいいてほしいな、というのが本音です。あるいは、自分は途上国での活動に参加できないけれど、エネルギーを持った人たちの後方支援に徹して、事務局のお手伝い、会報の発行や発送、資金集め、報告会や研修会の準備などに参加してみようという人が、やはり10人ぐらいいてほしいですね。

JAICOHは、もともと日本に歯科保健の国際協力の火を灯し、歯科大学教育で地域保健と同様に国際保健というジャンルを認知してもらうこと、志をもった人たちのための情報の収集と提供、活動の場を切り開いていくことを目的に設立されました。カンボジアやソロモン諸島での活動もまさにそのような目的で遂行されてきました。国際の場だけでなく、日本国内での在日外国人医療、在宅や施設での高齢者医療などもJAICOHのメンバーには積極的に挑戦してほしい分野です。

NGO活動は、自己実現のひとつの手段であり、困難にチャレンジする姿勢です。会員の皆様には動機はさまざまであっても、個々には明確な意図をもって参加してほしいと願っております。JAICOHが目指すのは、そのような個々人のアイデンティティを尊重しながら、イキイキした活動(人)を育てていくことにあると考えます。是非積極的な参加をお願いします。

金子郁容著『ボランティア—もうひとつの情報社会』岩波新書 1992を参考図書としてお勧めします。また『歯科評論』5月号(日本歯科評論刊)に国際協力についての座談会を掲載しましたのでお読みください。

カンボジア報告

(97.06 ~ 98.04)

報告 柴田享子

1997年

- 6月 第1次事後評価現地作業
- 同月 第1次事後評価国内作業。(評価報告会)
- 7月 クーデター勃発により事業一時凍結、駐在員帰国
- 同月 第1次事後評価国内作業
(評価に基づく今後の活動方針検討)
- 8月 第1次事後評価国内作業
(事業実施のため調査研修会)
- 同月 事態沈静化のため活動再開(駐在員派遣)
- 9月 第2次事後評価現地作業
(事業実施の調査、協議 12月まで)
- 11月 「カンダール州病院歯科室」へのデンタルユニット
チェアー供与、これを最後に物質的援助の終了
- 12月 第2次事後評価国内作業(今後の事業の展開検討)

1998年

- 1月 第3次事後評価現地作業。(一時事務所閉鎖)
- 4月 第3次事後評価現地作業「(再評価調査)

JAICOHが初めてカンボジアと関係を持ったのが1991年3月、プノンベン大学医歯薬合同学部への図書寄贈である。そして、本格的な協力活動開始はその翌年1992年11月、カンダール州タクマウ地区での第1回口腔保健医療活動(巡回歯科診療、保健指導等)からで今年で6年となる。評価時期を迎えた5年目の昨年6月、これまでの活動評価をするためJICA専門家、長い間国際協力の歯科分野で活躍されていた菊池陽一さんが中心となり、事後評価調査を実施した。

帰国後、報告会を開催し、その評価に基づく今後の活動方針を検討する国内会議を6,7,8月、役員とカンボジア関係者ら(クーデター勃発により一時帰国の駐在員東郷晶子さんも7月より参加)で数回行い、カンボジアの今後からJAICOHのフィールドの必要性にまで議論が及んだ。その結果、前者においては、来年度のボランティア貯金寄付金の申請をしない前提で、1)今までの活動のフォロー

アップ 2)身の丈での活動を前提としたニーズ調査の実施が決議され、後者においては、JAICOHの今後の在り方の再検討が示唆された。

8月末、カンボジア情勢事態沈静化により活動再開のため駐在員再派遣。クーデター後の対象地域現状把握調査の結果、活動一時凍結の約2か月間、カンダール州病院歯科室においてはJAICOHによる歯科材料の供与が一切行われていなかったにも係わらず、歯科室をほとんど開け、しかも治療時に必要な歯科材料は患者負担にすることによってそれをつないでいた。これは歯科室スタッフ内のアイデアでありそれに患者が納得し実施したことである。今までスタッフの依存的傾向ばかり問題にしていたが彼等自身必要に迫られれば自ら問題解決する能力を持っていることが今回で明らかになった。その後、9月下旬より前述した身の丈での活動を前提としたニーズ調査を実施。11月下旬カンダール州病院歯科室へのデンタルユニットチェアー供与、これを最後に当病院への物質的援助は終了した。

12月、ニーズ調査結果を踏まえての今後の事業展開検討国内会議を行った。

1) 現地事業関係者を窓口とする今までの活動のフォローアップ(98年6月頃まで)

2) 1)が可能になり経費節約のため現地事務所一時閉鎖

3) 98年4月に事後再評価実施

4) 98年6月事業撤収、それ以後はカンボジアとの関係維持のためスタディーツアー等で交流が決議された。

1998年1月、一時事務所閉鎖とそれに伴う関連作業のため担当者柴田派遣。駐在員東郷晶子さんはそのまま現地に滞在し、JAICOHとの雇用関係をパートタイムジョブに移行し本部からの依頼業務に当たることとなった。4月、予定通り事後再評価を事務局白戸洋、田中健一さんによって実施された。この目的は、JAICOHが関わったこの約6年間におけるカンボジア状況から見たJAICOH活動および医療状況から見たそれを評価調査するものである。前年6月に菊池さんらによって実施されたものとは視点が異なる。白戸洋さんは、長年ODAの開発コンサルタントの仕事に従事し、プロジェクト評価を専門としたエキスパートであり、また現在においてはその経験もいかした地域開発のエキスパートである。その白戸さんに期待したのは、やはり豊富な知識、経験とそれに基づいた広い見地に立った評価であった。その白戸さんのサポート役が田中さんだ。田中健一

さんは北京語と英語を自由自在に操る歯科医師で学生時代にアジア歯学生会議を開催した経験もありアジアの歯科事情にも詳しくまたネットワークも幅広く持っている。歯科専門分野の解説、助言を田中さんは担当し、お二人による約2週間の事後再評価調査は現地カウンターパートへの調査結果のフィードバックで完結した。現在、報告書作成中。結果を楽しみにしている。尚、この調査の事前調整のため1週間の予定で先にカンボジア入りした筆者は、任務後半で途上国の洗礼を受けて床に伏していたためお二人と共に活躍出来ず、関係者にも残念がられたことを付記して、約1年の活動報告を終了します。最後に一言。池田竜昭さんの後任を何の因果か引き受けてしまって、はや1年半。

辛い方々を差し置いて及ばずながらの会の役員経験、事業を実施する側の経験等、今まで兵隊でしかなかった私がマネジメント役になり、そのあらゆる経験をさせて頂きました。お金も遣いました。つきましては、今までにご迷惑をお掛けした方、誠に申し訳ありませんでした。そして、私をカンボジアを支えて下さった方、本当にありがとうございました。任期終了を前にこの場をお借りして心より申し上げます。今まで、皆さんへの発信が少なかったことが大きな反省点でのひとつであったと反省し、今後それを何らかの形でフィードバックしていけたらと考えております。

今後も、JAICOH即ち皆さんと交友関係のあるカンボジアに対しいつまでも関心を持って頂くことを切に願って最後の長〜一言を終わりにします。では、次回またこの紙面にてお会いしましょう。ありがとうございました。

← 役員会便り →

2月8日に東京歯科大学水道橋病院にて行われました役員会での協議事項についてご報告いたします。当日は村居 鶴巻 榊原 池田 大鶴 田中 真木 間島 河内 深井 柴田の各役員の方々と私が出席し、以下の事項について検討いたしました。

1) JAICOHの今後の活動について

村居会長よりカンボジア活動経過と評価会の報告があり、設立後8年の経過を振り返った上で、ボランティア貯金による制約が会の活動に悪影響をおよぼしているのではないかと考え、できるだけ多くの会員が参加できるミニプロジェクトを立ち上げてはどうかとの提案があった。また、今までのように会としてフィールド活動を実施するのではなく、会の役割を再検討する討議が行われた。

出席者からは、情報センターとしての役割(田中)、大学教育および卒後教育への関与(榊原)、会員としてのメリットが感じられる会(宇野)、事務局機能の見直し(宇野)会報の原稿集めから発行まで時間がかかっているのではシステムの見直しをしたい(大鶴)、ODAなどに会員が参加できる機会を開拓するべきではないか(真木)、JAICOHとして会独自のフィールドを持つのではなく、会員のフィールド活動を会としてサポートするようにはどうか(鶴巻、深井)、会員の思惑以上にJAICOHという名前は一般に知られているので会として社会的に責任

スリムヘッド EX slimhead



EX slimhead キーワードは歯科です。

DENT EX slimhead


株式会社 松風

ど ん な と き で も

短時間でセッティングできるケースから時間のかかるケースまで
どんなときでもCXが対応します。

HY材配合

ハイボンド 承認番号 04B第601号
ガラスアイオノマー-CX
歯科接着剤用ガラスアイオノマーセメント



株式会社 松風
本社 ●〒605京都市東山区福屋上高松町11-TEL(075)561-1112(代)

がある（鶴巻）などの意見がだされた。

明確な結論はまとまらなかったが、これらの討議をふまえて時期役員により事業計画が作成される予定。

2) ミャンマーについて

村居会長と真木理事より報告があった。別紙ミャンマー歯科保健協力事前打ち合わせ報告参照3) カンボジア報告東郷さん現地駐在員契約満了および事務所閉鎖等について、12月24日関係者により今後どうするか検討した。その結果、今後はボランティア貯金に依存しない活動を実施していくこと（デンタルナース養成等）、今後の活動には継続的に事務所を維持する必要はないという結論に達した。今後の事業のあり方として、JAICOHとして実施するのではなく、会員が実施する事業にJAICOHとして援助協力する体制を取る事となった。また、この5年間の事業について今年4月にプロジェクト評価を行う予定である。

3) 歯科衛生士の海外青年協力隊OBを中心としての連絡会発足について（間島さん）

協力隊参加経験のあるOHがかなりいるが、JAICOH会員を中心としてネットワークをつくり、さしあてって参加者の経験を発表する事業を行いたい（4月26日開催予定）。本会の事業としての位置づけはできないが、財政的援助を含めて会場手配、広報等できるだけの協力を行うこととした。

4) 平成10年度総会について

今回は横浜東京近辺にて開催。在東京地区役員会員でコーディネートすることになった。

5) 出席者近況報告

港町歯科診療所（大鶴先生）ホンジュラスの海外青年協隊（河内さん旧姓田畑さん）より近況報告を受けた。

6) 次期会長について

役員会としては村居先生に続投をお願いしたいとの要望を伝えた。

国際活動と私
—ちょっと真面目な近況報告—
田中健—

AICOH 会員の皆さん 91年より参加しております田中健一です。アジア太平洋諸国での歯科学会会議に参加、主催した関係で国際活動に興味を覚えました。そもそも海外との出会いは、88年に1年間、中華民国に留学したことからはじまりました。さて、今年縁ありまして、カンボジアプロジェクトの再評価事業に参加し、JAICOH 活動（ならびに海外活動）を考える機会を得ました。現在の問題点：どこのNGOでも一緒でしょうが、資金およびマンパワーでしょう。さらになぜ海外活動を行うのか？という最も根源にかかわるポイントが、まだないでしょう。（これが変わり身の早いNGOのいい点だともいえるかもしれませんが）JAICOHの今後この様な点を踏まえた上で、私なりの私信を述べます。国際活動はJAICOHのようなNGOのレベルで入れば入るほど、資金も必要になりますし、時間も投入しなければならなくなり、現実とのGapに苛立ちを覚えます（JAICOHに限ったことではありませんが）。その疑問に関しては結局、自分の出来る所で、身の丈にあった活動ということになると

携帯用マイクロモーター

VIVA-MATE III 2,000~30,000 rpm
(ビバメイトⅢ) 承認番号(08B)第0561号

- コンパクトで持ち運びが簡単に行えます。
 - ・出張診療、在宅診療、集団検診
 - ・電源から離れた場所での治療
 - ・停電時の応急治療
- ユニットに組み込まれたフィードバック機構により抜群のねばり
- ISO規格のハンドピース、コントラアングルが装着可能
- 正逆切替可能

NSK 株式会社 **ナカニシ**

本社・工場/〒322 栃木県鹿沼市上日向340 TEL:0289-64-3380 FAX:0289-62-5636
東京事務所/〒110 東京都台東区上野3-19-4 サカイビル3F TEL:03-3835-2907 FAX:03-3835-4332

かむ能力を高めて、全身丈夫に！ ☆推薦/日本歯科医師会・日本咀嚼学会
歯科教育ビデオ ●監修/指導/齋藤 滋 (神奈川歯科大学教授)

8020 咀嚼とからだの健康 (全2巻)

I. 丈夫な顎で元気な子 —子どもの顎とかむこと 14,500円 (税別)
噛むことと顎の発育、全身への影響、噛む力を強くするための食事などについて昔のひととの比較、動物実験、献立のポイントなどを紹介してわかりやすく解説。(母親、子供向け/20分)

II. かむ・かむ・健康 —80歳で20本の歯を残すために 14,500円 (税別)
食べ物をよく噛むことは脳の老化を防ぎ成人病の予防にも役立つこと、高齢者の食事の献立、義歯や痴呆症との関係、口腔内の衛生等々、噛むことと成人のからだの健康について具体的に解説。(一般向け/20分)

DeJ 株式会社 **デンタルダイヤモンド社** 〒113 東京都文京区本郷3-18-16 岩片ビル
TEL:03-3814-9101(代) FAX:03-3814-9105

思います。 現在、なぜ私が国際活動をしているかについて自問した時、海外活動を行うことによって、国内の医療問題が見えてくる。海外から国内を見た時には違った点が見えてくる ということです。海外医療は国内医療に帰着するといえます。そういった意味で海外から教えて貰うことのほうが、私には教えるものより多いのが実際です。(その点で、私は医療協力なんておこがましくていけません。ですから、今回も海外活動と書かせていただきます。もしあえて言うなら、May I help you? でしょうか。) 海外活動の在り方： 日本もこれだけ不況ですので、ますます海外活動の資金入手が困難になるでしょう。 そうした意味で、MEDICAM (アメリカのNGO) のカンボジア代表 Stephane が話していたように、Cost Recovery system (こちら側の持ち出しだけでない受益者負担の原則) があってもいいのかもしれない。また、こうすれば海外活動で、飯が食べれる人も 増えるでしょう。我々もし、ボランティアの概念を少軌道修正するときかもしれません。 卒業後間もない人へは、JAICOH に行けば、海外で飯を食べれる情報もある、という 取り組みが必要と感じています。また、海外からの視点を通じて、国内医療を話し合える 場にJAICOH がなればいいと思います。さらには将来、" JAICOH は海外活動もしていた んですね" ! なんて言われるようになってもいいですね。 最近の私： 私が選んだ歯科は、実際社会とどう接しているのだろうか？ また、我々の考えと社会のそれではあるGap があるのではないか？ という素朴な疑問から、いい年 (35歳) して津田大学にて聴講生を始めました。(講義についていくのに精一杯で、女子大なのに回りの若い女の子の顔みてる暇あ

りません) 自分の疑問に対し、自分で答えを出せるよう努力 (もがく?) しています。主体的に学問するのは、恥ずかしながらはじめてです。その他、歯科国家試験予備校にて拙い教鞭を執ってます。 久しぶりにマジな文章書いて頭痛いんですが、皆さんの意見頂ければ幸いです。

E-Mail: BXU00436@niftyserve.or.jp (98.2 現在)



宇野 公男

JAICOH が設立されて早 8 年が経ちました。この間を振り返ってみますといろいろなことが思い起こされます。何らかの国際協力活動の経験がある人々が集まり活動報告をする中で一つのNGOを作ろうということで村居会長のもと本会が設立されました。また設立当時の会員にはNGOとしての理想を求めて参加した方も多くおり、単に活動報告をするのみではあき足らず、たてしなでの徹夜の討論の結果JAICOHとしての独自のフィールドを展開することになり始まったカンボジア保健医療そしてソロモン。その中で培われたノウハウと人との出会い。それ以外にも総会や研修会またその他いろいろな国々との関わり合いはJAICOHを会員が思う以上に育て、またJAICOHの名前はいろいろな関係の中で一人歩きをも始めています。遊び半分の気軽さのNGOでは社会に許されない責任がJAICOHには求められているのです。

今、ボランティア貯金の制約が重荷となったカンボジア

HOME CARE®ですこやかに
歯と歯ぐきにやさしい

ホームケア歯ブラシでホームケア

株式会社 永山
〒563 大阪府高槻市宮之川原4-19-3
TEL (0726) 88-4181 FAX (0726) 88-8854 電話0120-118418

ベストセラーの 'GC' モデルチェンジ

歯色の修理やテンポラリークラウン、レジン固歯トレーの製作などで好評のユニファストがさらにレベルアップして新登場。従来の常温重合レジンと比べていた色調の不安定性、重合時の変形を鮮やかに解決。黄変や色調の経時変化を極限まで抑えました。

(テックの製作が迅速・簡単に) 超速硬化性常温重合レジン
(優れた色調マッチングと耐変色性) **ユニファストII**

承認番号06日第0822号

スターターセット(3-1P)
3色・5色・10色: 粉末35g入 A2, A3, N2 (ライフピンク) 各1本, 速100g (104x10) 1本, ラバーカップ7個, 粉末計量器1個, 混合攪拌棒1個, プラスチックヘラ1本, 小筆1本, 遮光/ズル付キャップ1個, カップホルダー1個=¥6,900
※掲載の病院医院価格は、'95年4月現在のもので(消費税は含まれません)。

株式会社 ジーシー 本社/東京都板橋区蓮沼76-1 〒174 TEL(03)3965-1221
GC DIC/東京都文京区本郷3-2-14 〒113 TEL(03)3815-1511

活動を見直し、JAICOHとしての役割を今一度考える時期が来ているようです。しかしながら、一部の会員に大きな負担がかかっていることも事実として考えていかなくてはなりません。本来の生活の糧としての仕事とJAICOHの活動とを両立させることは困難ですが、その中から満足を見出す喜びを多くの方と分かち合いたいと思います。今回役員会で討議されたように、会としての独自の事業を行うことよりも、会員の活動をバックアップすることを重視することに方向転換しようとしています。外務省にたとえればいわゆるODAよりも草の根供与重視ということでしょうか。このためには今までの一部会員先導事業ではなく、より多くの会員の参加が必要です。今現在では助成金も十分ではありませんが、JAICOHにはお金では買えない人脈とノウハウがありますから、こちらは大いに利用していただければと思います。こんなことをやってみたい、やったらどうか、教えてほしい等会員の方からのご要望やご意見をどうぞ事務局までお寄せください。きっと良いことがあると思います。

J A I C O H N E W S L E T T E R
体裁変更のお知らせ

JAICOHの機関紙であるNEWS LETTERは、現在A4の大きさで、新聞形式で発行しております。会員の皆さんの相互の情報交換の場として、あるいはJAICOHの活動を広く会員以外の方々や、団体に知っていただくためにも機関紙NEWS LETTERは、重要な役割をになっています。この発行に関しては、創刊以来、広報担当を引き受けてくださった役員の方を中心に、歯科ペンクラブのご協力を得て現在にいたっています。

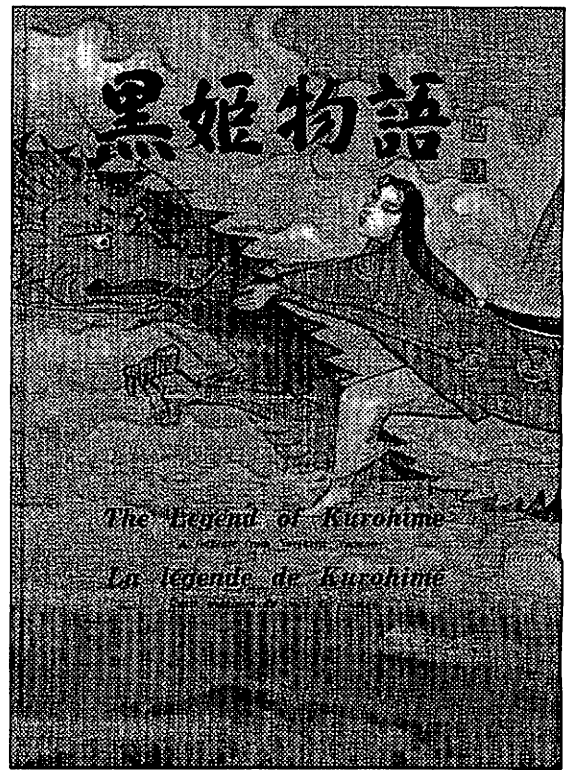
今後JAICOHの活動を続けて行く上からも、定期的な機関紙NEWS LETTERの発行は欠かせない活動の一つですが、現状の方法では、原稿の依頼、収集、編集など担当の負担も大きくなっており、ある程度専門家に任せる部分を作ろうということになりました。

先の役員会で2回に渡り協議した結果、歯科界で43年の歴史をもつ文化団体「歯科ペンクラブ」が発行している月刊誌『歯科ペンクラブ』の誌面をお借りすることが、多角的にみてより良い方法ではないかということになりました。「歯科ペンクラブ」側もこれを全面的に協力、応援して下さることを、理事会で決定していただいております。

今後は、歯科ペンクラブ誌がJAICOHNEWS LETTERとしてお手元に届くこととなりますのでよろしく申し上げます。

後日、別便にて詳しいご案内をお届けします。

信州の民話が素敵な絵本になりました



長野県の会員の青木一さんが、信州に伝わる民話「黒姫物語」の絵本を、日本語、英語、仏語の訳をつけて出版しました。北信濃を舞台にした人間と自然との共生を謳った物語で、300人の市民が自分たちで作ったものです。絵本はA4版ハードカバー、約30頁で、一冊1300円(送料別)となります。

ご希望の方はJAICOH事務局まで。

*なお、青木さんからのご厚意で、一冊につき300円をJAICOHに寄付して頂けるということです。

- 編集後記 -

発行が遅れたことを、先ずもってお詫びいたします。今後は歯科ペンクラブ誌に併載ということで、半分安心しています。

1月、4月、7月、10月が発行予定の月ですが、歯科ペンクラブ誌は月刊誌として444号を数える歴史をもっている雑誌ですから、相互の利点を活かした活動につながることを期待しています。JAICOHの活動を歯科ペンの方々にも知ってもらいたい機会ですからね。歯科ペン誌の表紙は、毎号季節感のあるイラストで飾られていますので、それも楽しみです。それでも会員の皆さんの原稿が頼りです。奮ってお願いします。

大鶴先生がパパになられたそうです。奥様の出産に立ち合われたそうで「人生観変わった」と感激もひとしおのご様子でした。なによりおめでとうございます。